

残したい

想いと風土



高山市
久々野町

小屋名しょうけ保存会

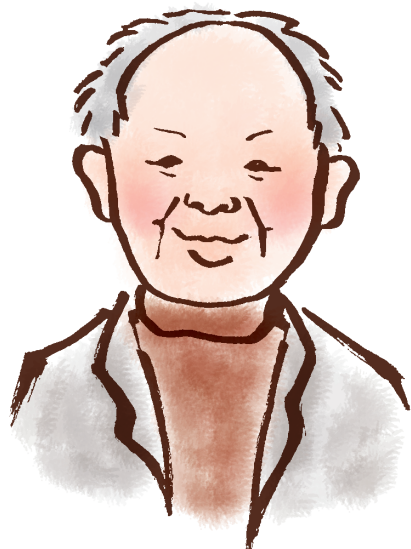
森 久治さん

ご先祖様が残してくれた

小屋名しょうけと大橋用水

どちらも素晴らしい地域の宝や

若い人に伝承していかんならん



ふたつの宝

久々野町小屋名(こやな)

地区には、「小屋名しょうけ」、「大橋用水」という地域が誇る宝があります。

森久治さんは先祖代々の土地に暮らし、これらに深く関わってきました。

小屋名しょうけ

「小屋名しょうけ」とは竹

細工のざるで、野菜の水切りや米あげに使われます。

江戸時代に出稼ぎに行った

男性が編み方を習って帰った

原型にさらに工夫を重ね、

現在の形になりました。

平成8年にはこの伝統を

残そうと「小屋名しょうけ

保存会」を立ち上げ、毎年

講習会を開いて伝承する活

動をしています。

小屋名しょうけ

岐阜県重要無形民俗文化財
高山で一月に開かれる
二十四日市でも人気です



二十四日市では実演しながら販売します。

スズタケ

節が小さく編みや
すい小ぶりの竹。



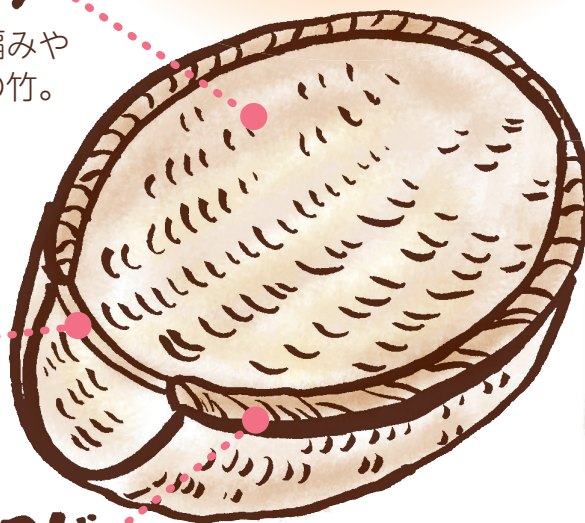
ツタウルシ

枠に使います。



マタビ

水に浸けて柔らかくした
ものを枠の縁に巻きます。



竹を加工する道具は
古い鉋や鎌から手作
りします。



竹ひごの断面をかまぼこ型に成形
するため、米や豆がくっつきづら
くなります。

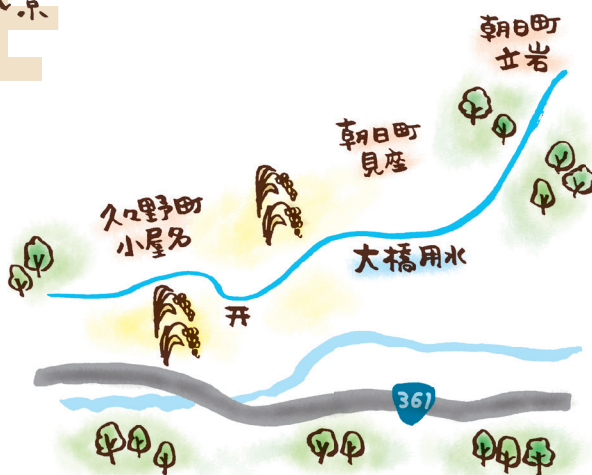


地域学習

地域を豊かにした大橋用水の歴史を子どもたちに語ります。

大橋用水

朝日町立岩～見座を通り
久々野町小屋名までを流れる
全長 約5,800mの用水路



江戸時代の大工事



完成までにはさまざまな困難がありました。

この土地で米作りを

「大橋用水」とは、江戸時代に作られた用水路です。昔、小屋名周辺は山からの水が来ず稲作が出来なかったため、食糧や年貢にとっても苦労しました。しょうけ作りの原型を伝えた男衆が出稼ぎに出ていたのもそのためです。そこで、森家の先祖である5代目・森久次が中心となり、上流から水を引く案を考えました。しかし6キロメートル近くの水路を作ることには無謀でお金もかかる、反対意見も多くありました。

画をすすめました。

現在のようには重機がなかった時代、工事はすべて手作業で行われました。固い地面を掘り、少しずつ岩をくだいてトンネルを作り、決意してから30年以上もの年月を経て、大橋用水が完成しました。

先祖が大橋用水を作ってくれたおかげで、小屋名は米が作れる土地になりました。また、生活用水や防火用水としても人々の暮らしに大きく役立ちました。

次世代へつなぐ想い

大橋用水の逸話は地域の偉業として語りつがれ、浪曲や劇の題材にもなりました。また、地域学習の一環として地元の子どもたちに伝える活動もされています。

いま、伝えたいこと



(文・絵 大森貴絵
画 高山市)

小屋名しょうけを待っとるファンは多いんやよ。金属やプラスチックのざるもあるけど、小豆や米を扱うには竹が一番と、和菓子屋さんが遠くから二十四日市に買いにござることもあるんやさ。喜んでくださる人がおるんやで、残した方がいい。若い衆がやっていってくれたら嬉しいな。先祖が苦労して作った大橋用水は、150年以上経った今も米作りや生活に役立つ。日々感謝して、誇りに思っとるよ。